

会 議 録

会議名		令和6年度第5回小山地区まちづくり会議		
事務局 (担当課)		中央区役所中央6地区まちづくりセンター 電話042-707-7049 (直通)		
開催日時		令和6年12月3日(火) 19時00分～20時40分		
開催場所		小山公民館 大会議室		
出席者	委員	13人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局等	3人(中央6地区まちづくりセンター所長ほか2人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議 題</p> <p>(1) 地域活性化事業交付金の申請について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童生徒のためのスポーツサポート(スポサポ)事業 ・小山地区ハロフェス(あいさつ運動)プロジェクト <p>(2) 中央区地域活性化事業交付金の交付状況等について</p> <p>(3) 「災害弱者」に対しての小山地区の具体的な取組に向けた情報交換</p> <p>～災害弱者に対する関連団体の共有～ について</p> <p>4 閉 会</p>		

議 事 録

主な内容は次のとおり。(○は委員の発言、△は申請団体の発言、●は事務局の発言)

1 開 会

2 会長あいさつ

入谷会長のあいさつにより開会した。

3 議 題

(1) 地域活性化事業交付金の申請について

新規事業として申請された2件の事業について、それぞれ申請団体から事業の企画提案に至った背景や実施内容などを含めて、申請内容全般について説明が行われた。

■不登校児童生徒のためのスポーツサポート（スポサポ）事業

<主な意見・質疑>

○地区社会福祉協議会でも不登校に関する相談はよく受けており、「フリースクールは費用が高額だ」という声も届いている。体を動かすことは友情や仲間づくりにも繋がるものだと思っており、大事なことである。市においてもこのような事業に対しては助成していただきたい。地区社会福祉協議会としても応援している。

○活動拠点は相模原スポーツ・レクリエーションパークのみか。多くの子どもが参加できるよう、活動拠点を広げても良いと思う。

⇒△まずは同施設を拠点とし、今後広げていく予定である。雨の日や夏の暑い日の対策として、公民館など、室内の施設での実施も検討している。

○本事業の対象は不登校児童生徒のみか。

⇒△平日の日中に活動予定のため、対象は不登校児童生徒のみである。

○私の子どもが以前不登校であったが、第三者のサポートが非常に大切であると実感している。当時は不登校専門の塾に通ったが、塾の先生にサッカーを教えてもらったりいろいろな場所に連れ出してもらい、おかげさまで今では元気に大学生活を送っている。この事業の周知については、本当に必要としている家庭に届く様に工夫していただきたい。

○以前障害者支援施設で働いていたが、イベント等を実施する際は、その地域の学校の副校長等に協力いただいたことがあった。周知の参考にしていただければと思う。また、放課後等デイサービスと連携して取り組むのもよいのではないか。

○行事保険の加入は必須である。また、周知については、必要な家庭に情報が届

くために、チラシをポスティングするのではなく、各学校に配置されている不登校児童生徒の専門教諭へ配布依頼をしたり、不登校児童生徒に関するサークルなどへ声掛けするのはどうか。その他、大学との連携や、SNS やタウンニュースの活用も含めて検討いただきたい。

- ⇒●保険については、現在申請団体が加入しているもので対応できると伺っている。また、本事業の申請にあたり当センターと市青少年相談センターで打合せをしたところ、不登校児童生徒の専門教諭へチラシの配布依頼をすることは、市経由であれば可能とのことであったため、当センターとしても支援をする予定である。また、幅広い周知についても一定の効果があるという意見もあり、委員の皆さんの意見を踏まえ、配慮しながら対応できればと思う。
- ⇒△不登校児童生徒に関するサークルに対しては、既に連絡をしている。事業の周知については、SNS の活用や学校の専任教諭への依頼も含めて検討したい。

<結果>

積極的に採用すべき事業とする。

■小山地区ハロフェス（あいさつ運動）プロジェクト

<主な意見・質疑>

- コロナ禍以前は向陽小学校に小山中学校の生徒が来てくれてあいさつ運動をしていた。是非とも復活させてほしい。
- 子どもたちは学校内ではあいさつを返してくれるが、一步外に出ると「誰？」という顔をされることもあり、しっかりあいさつを返してできるようになるまでには時間を要すると感じている。同じく向陽小学校に出向いてのあいさつ運動の復活を希望する。
- 久保原自治会においてもあいさつ運動と身の回りの掃除活動を通じた地域での交流を図っている。また、以前当交付金を活用してのぼり旗やスタッフジャンパーを作った事業実績があり共感した。「言葉は心の潤滑油」であり、あいさつ運動の意義は十分理解する。ハロフェスというネーミングも素晴らしい。活動場所を校門から徐々に地域の各所に広げていってほしい。
- 民生委員・児童委員においては向陽小学校の近くで見守り活動をしているが、あいさつをしても反応がないことがある。当事業を展開し、地域交流・活性化の起爆剤となってほしい。当交付金交付年限である3年を超えての活動を希望する。
- あいさつ運動はどこの学校でも行っているが、生徒会が主体となり音楽をかけたりバルーンを飾ったり、楽しみながら行うところが素晴らしい。あいさつは言われる前に言うことに意義があると思っている。
- ⇒△子どもたちは「地域の人たちと仲良くなりしたい」、「いろいろところでハロフ

エスを実施したい」という考えを持っており、当事業はどんどん広げていく予定である。向陽小学校に出向いてのあいさつ運動は今後検討する。

<結果>

積極的に採用すべき事業とする

(2) 中央区地域活性化事業交付金の交付状況等について

中央6地区まちづくりセンターの井上所長から資料に沿って、説明が行われた。

<主な意見・質疑>

特になし。

(3) 各種防災情報について

事務局から資料に沿って説明した。

<主な意見・質疑>

特になし。

(4) 「災害弱者」に対しての小山地区の具体的な取組に向けた情報交換

～災害弱者に対する関連団体の共有～ について

入谷会長から資料に沿って今年度のまちづくり会議のスケジュールの確認を行った。

また、前回の会議では「災害弱者に対してのまちづくり会議団体内の取組」を共有したことから、今回は「まちづくり会議の他に災害弱者に関連する団体は何かあるのか」をテーマにグループワークで共有したい旨、提案がされた。

【グループワークで検討】

事務局からグループワークのねらい、進め方等を説明し、別紙に示したグループでの検討が行われた。

【各グループの結果】

■ Bグループ

小山地域包括支援センターにおいて作成している冊子に、地区自治会連合会や地区社会福祉協議会、公民館、民生委員児童委員協議会の主要な団体のほか、それに関連するような団体が掲載されている。百歳体操、シニアサポート団体、各種サロンの団体などが多くあるので、深掘りして調査をしてもいい。

■ Cグループ

消防団、避難所運営協議会、自主防災隊の他、地区内にある工場などの企業の

災害に対する取組なども調べたらどうか。企業と地域との連携の糸口を探っていきたい。

■ Aグループ

災害弱者の関連団体については思い浮かばなかったが、今後事業を検討するにあたっての個人情報の管理や災害時の連絡体制について共有を図った。

外国人なども含む災害弱者の把握は、個人情報ということもあり、各団体の取扱いに限られてしまう。災害時の連絡体制については、オープンチャットでは匿名性が高く信ぴょう性に欠けるため、LINE グループを作成し、希望者が登録するという手段を検討してみてはどうかという意見が出た。

<主な意見・質疑>

特になし

4 閉 会

長谷川副会長のあいさつにより閉会した。

以 上

小山地区まちづくり会議委員出欠席名簿

令和6年12月3日開催

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	入谷 利郎	小山地区自治会連合会	会長	○
2	加治 左近	宮下自治会		○
3	徳永 三朗	すすきの自治会		○
4	亀田 浩代	すすきの向陽自治会		○
5	新田 弘子	向陽町自治会		○
6	丸山 和加恵	久保原自治会		○
7	武井 弘吉	自治会法人 氷川町自治会		欠席
8	宇根 浩	相模原駅前自治会		欠席
9	福田 雅幸	東第一自治会		○
10	笠原 昌昭	丸山自治会		欠席
11	星 清次	小山公民館	副会長	○
12	川口 久美	小山公民館		欠席
13	小宮 里美	小山公民館利用者懇談会		欠席
14	長谷川 澄男	小山地区社会福祉協議会	副会長	○
15	山田 良章	小山地区社会福祉協議会		欠席
16	小池 美恵子	小山地区民生委員児童委員協議会		○
17	大谷 春枝	青少年健全育成協議会		○
18	永山 康雄	防犯指導員		欠席
19	加藤 秀子	相模原交通安全協会小山支部		○
20	中村 悠一	向陽小学校PTA		欠席
21	金子 順	小山中学校PTA		欠席
22	中里 和男	相模原西商店街協同組合		欠席
23	小田 信之	小山地域包括支援センター		○
24		学識経験者		